



蝉時雨はいつのまにやら秋の長雨にとってかわり、今日は晴れたり明日は曇ったりと秋の陽気は気まぐれですね。吹き抜ける風が心地よく感じられるときもあれば、妙に肌寒く思えるときも。季節の変わり目を感じているのは身体だけではなく、むしろ心かもしれないと思ったりします。夏の強い生命力を身体中にたっぷり受けてきた子どもたち。充実の二学期を迎え、身体と心、両のバランスを大事に過ごしていきたいものです。

\*\*\*\*\*

## 【9年生・農業実習報告】

7月1日日曜日。9年生12名は羽田空港に集合し、保護者の見送りに応えながら帯広行きは搭乗口に向かいました。北海道十勝地方の、バイオダイナミック農法を实践する「ソフィア・ファーム」で農業実習を行うためです。昨年度は秋でしたが、北海道は早くから寒くなるという理由から「気候の良い」7月上旬に移したのです。万が一に備えて、レインスーツ、防寒用のセーターやジャケットも荷物に入れました。「うわあ、北海道は広いねえ。」と無邪気に飛行機の窓から雄大な景色を見下ろしていた時には、まさかその装備が前半1週間これほどまで役立つとは、予想もしていませんでした。

ファームに到着すると、この農場の主ベンさんとこのみさんのキャンベルご夫妻と対面。

「これから2週間、ファームでの生活を楽しんでほしい。」というベンさんの英語での歓迎の言葉を受け、このみさんからは農場での生活に必要な心得を話していただきました。人見知りで初対面の相手が特に苦手な9年生を見ると、すでに緊張で顔がこわばっていました。(やれやれ)

### 「農場の一日は、長い。」

到着から一晩明けた実習の1日目。朝一番の仕事は5時前に始動です。まず豚、鶏に餌をやり、水を換えると軽トラックで山の斜面にある牧草地に向かいます。そこでは14頭の牛たちが思い思いに草を食べています。生徒たちはトラックの荷台から降りると草むらに分け入り、牛たちの背中やおしりを押したり叩いたりしながら丘の上の搾乳小屋へと誘導します。搾乳小屋の近くにいるベンさんが牛たちの名前を一頭一頭呼ぶと、その声に反応して牛たちがゆっくり歩み始めた時がチャンスです。主だった牝牛（牛には序列があるそうです）が搾乳小屋に向かって歩きはじめると、子牛や若い牛たちも做って歩みを進めてくれます。人間の都合だけでは進まない牧場の仕事。相手が生き物であり、彼女（牝牛）たちにもそれぞれ都合があることを認めながら人間と牛とが折り合いを見つけていく中で乳搾りの作業も行われるのだと、生徒たちは学びます。ここまででやっと午前7時～8時。搾乳班ではないチームも薪割りや雑草抜き、朝食準備など5時半頃から手分けして開始していました。朝食を摂り終わるまでに普段の午前中いっぱい活動に匹敵するボリュームがあるのです。9時から3時間働いた後の1時間半ほどの昼休みは自由時間です。そして2時から5時近くまでまた3時間の作業です。6時の夕飯が待ち遠しいくらいに疲れ果てます。しかも、作業の一つ一つに皆意味があり、大切な事なのだということが生徒たちにも伝わり、おろそかにはできません。ほんとうに長い一日がこうして終わります。ただ、全員が揃って頂く夕飯時にベンさん、このみさんが同席しない日も多くありました。生徒たちが「今日の作業は終わり！」と休んでいる間も農家では家畜たちへの餌やりや農機具の片づけなど、明日に延ばせない様々な仕事があるのでした。



(朝一番、搾乳の仕事)

## 「北海道にも梅雨があった。」

秋の寒さを避けての日程だったので、これは予想外でした。7月1日から13日までに、日記に「晴れ」と記入できたのはただの1日でもありませんでした。「曇り・晴れ」の併記が2日、「曇り・晴れ・雨」の併記が2日。残りは「雨」と「曇りのち雨」でした。雨雲が太陽を隠すと、気温は一気に下降します。雨で煙る牧草地で牛たちを追う時、人参の苗を覆う雑草を抜く時、「万が一のため」に持ってきていたレインスーツが大活躍しました。「三日前に洗濯したものがまだ乾きません。」という切実な訴えを聞き、7月4日、ついに食堂の薪ストーブに火が入りました。これで、雨の日も倉庫で黙々と薪や焚き付けを割ってきた意味が良く分かった生徒たち。夜空に雄大に横たわっているはずの天の川を見上げることが出来なかったことが、今年の9年生にとって大きな心残りとなってしまいました。



(牛の柵を皆で作る)

## 「牛と豚の囲いをつくる仕事」

7月の大仕事といえば、高く伸びた牧草を刈ってブロック状にまとめた「冬の飼料」をたくさん作る事だと、打ち合わせの時に聞いていましたが、そのためには晴天の日が5日間続く必要があるのだそうです。無情の雨のお陰でこの季節らしい仕事のお手伝いは叶いませんでした。しかし、9年生には別の大仕事がありました。雨が一休みするたびにベンさんはせっせと山の上に出掛けていき、一か所には子豚と乳牛の柵を、もう一か所には肉牛を集めるための柵を張り巡らせる作業に打ち込んでいたので、それをお手伝いすることになりました。男子女子隔たり無く作業した日もありました。しかしまたこんな日も。「雨が止んでいる内に昼休みなしで柵を作りに行くが、ついてくる者はいるか?」と昼食中にベンさんが尋ねると、男子全員が一斉に手を挙げ、これを見た女子は班の編成を越えて夕食作りに回り、作業に行く男子を応援するという形になりました。

生徒たちがベンさんの指導の下完成させた子豚の囲い、乳牛の囲いは早速利用が開始されました。帰る2日前か

らは別の場所の肉牛の囲いの仕上げに取りかかり、帰る前日には90%完成まで近づけました。

「君たちの手伝いがなかったら、まだずっと作業が続いたろう。僕は君たちを誇りに思うよ。ありがとう。」というベンさんの労いの言葉に、皆が満足の笑みを見せた最後の作業日でした。

## 「素敵な人たちとの出会い、

### 忘れられないバーンファイアー」

ベンさん、このみさん夫妻だけではなくスタッフとして常駐の「啓(さとし)」さん、ファームの支援者で平日通って手伝っている松山さん、それにその時々で国内外から「研修生」として滞在する人たちがいて、初めてファームの運営が可能になります。9年生が滞在していた間、北海道在住のオイリュトミストの女性、アラスカからとニューヨークから来た大学生がいて、作業や食事を共にしました。もちろん、意志疎通に英語を使わざるを得ない場面がありました。なにしろ、ベンさんはほとんど英語で話すので、作業中の指示をしっかりと理解しなければなりません。英語を使うのに恥ずかしがっている場合ではない、という場面に生徒たちが遭遇したのは良い経験だったと思います。最後の晩、都会ではもちろん通常のキャンプ地でも想像できないほど大きな薪(というより乾いた木を丸ごと!)を組み、火を点け、天をも焦がす勢いで燃やしている回りでキャンベル夫妻やスタッフたちと共に過ごした時間は、生徒たちの心に残る一生の思い出になったはず。人見知りでなかなか打ち解けない印象を与えがちな長井クラスも、この時ばかりは自分たちの知る限りの歌を次々に披露し、感謝の意を表していました。

滞在中、寛さんから天文のお話を伺ったり、早川さんによるエネルギーについての特別講座を受けられたりしたことも、かけがえのない学びになったと思います。学園から炊事指導で同行してくださった黒沼先生が、実習中の生徒たちをしっかりと支えてくださいました。



(調剤を堆肥の山に決められた順序で埋めていく)



(生徒たちの手で完成させた柵)

### 「帰る日だからこそ、事件発生？」

いよいよ今朝はファームを去るのだと搾乳や畑作業の手伝いをせずに荷造りに勤しんでいた時、このみさんが息せき切ってやってきて、「牛たちが牧草地から新しい牛の囲いに移動していた」と説明しました。この、自主的に新築の囲いを見に行ってしまった牛たちを元の牧草地に戻すということが今年度最後の仕事になりました。「牛たちが9年生との別れを惜しんだのでは？」と言って笑い合い、最後まで思い出に残る実習でした。

### 「ベンさんの言葉」

肉牛の囲いがほぼ完成して一日の仕事を打ち上げて帰る車の中で、ベンさんが語ってくれた言葉が印象に残っています。「昔、多くの仕事は大人から若者へ、実践を通して教え教わって伝えられてきた。親方と弟子、父親と息子。今日のように（肉牛の囲いを作った時）。僕には息子も娘もない。だからこうして生徒たちが来て一緒に作ってくれたのは、本当にうれしい。自分が父親で、彼らがみんな息子、娘たちのようで。自分が持っている知識や技術、考えを伝える相手がほしい。だから多くの若者にここに来て一緒に働いてほしい。一緒にファームを作りたい。これからこのファームはもっともっといろいろな人とかわり、いろいろな分野とつながり、大地を、地球を癒やすために広がっていかねばならないから。」

「一日がすごく長く感じられ、二週間もきつと長いと思っていたけれど、それでも長いようで短かった」と生徒たちは感想を述べました。雄大な北海道の空の下で（たとえそれが雨雲に占められた空だったとしても）多感な14、5歳の子どもたちが農業という命の根源にかかわる仕事と短い期間でも触れられたのはどれだけ意味のある事でしょう。まだ本人たちには分からないかもしれませんが、しかし、シュタイナー学校の9年生のカリキュラムになくはない大切な学びであることは確かだと思います。

(9年生担任 長井麻美)

## 「こどもといっしょのくらしかた」開催報告

8月25日(土)に、妊婦さん・乳幼児家庭向けイベントを開催しました。



「酷暑」という聞いただけで汗が流れるような言葉を何度も耳にした夏でした。皆さんはいかがお過ごしでしたでしょうか。特にちいさいお子さんと過ごす日々は沢山の工夫が必要だったかと思います。

8月25日(土)霧が丘校舎で開催したイベント「こどもといっしょのくらしかた」には、たくさんのご家族に参加していただき、有難うございました。どのご家族もお子さんと一緒に、その時を楽しく過ごして下さっていたようで、嬉しく思っています。

ワークショップや遊びの部屋、幼稚園の出展ブース、人形劇など、お子さんと楽しめる時間のほか、小児科医や幼稚園の先生と一緒に子育てを考えられて、学べる喜びも詰まった1日でした。

神之木クリニック山本忍先生の講座では、予防接種のことや、病気との付き合い方など、ちいさいお子さんを育てている上で誰もが抱える悩みについての質問が多くありました。「お母さんが、お子さんのためにと考えた結論であれば大丈夫。子どもはそれが必要なことなんだとちゃんとわかっていますから」といった、先生からのあたたかなお話に、ウルウルと目頭が熱くなっている親御さんの姿がありました。

幼稚園の先生とは、「焦らない子育て」「怒りんぼ母さんにならないために」という、これまた子育て中には、思わずウンウンとうなずいてしまうようなテーマで、ざっくばらんにお話する機会を持つことができました。

それらの内容が、ちいさな子と暮らす日々のヒントとして、1つでも2つでも助けになれば嬉しいです。

私たちスタッフは、ちいさな子の姿を見ながら「あー！うちの子もあんな風にヨチヨチ歩いていていたわ！」と、若干のノスタルジーを感じながら、今は今で、日々を大切に過ごしたいなと思えた日となりました。

今後も、色々な形で「こどもといっしょのくらしかた」で皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

(こどもといっしょのくらしかたスタッフ一同)

# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 2019年度入学説明会

9月23日(日) [A] 終了  
9月30日(日) [B] 10:00～12:30 十日市場校舎

※2019年度に入学をご希望の方は、A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。  
※二次募集の開催が決まりましたら、10/12以降、学園サイト等でお知らせします。

## 学園周辺ぐるっと探訪会

学園を起点に、親子でゆっくり歩きながら、学園周辺の緑豊かな教育環境を探訪します。  
里山の古民家で楽しくお弁当をいただき、帰路はJR十日市場駅までご案内します。  
事前のお申し込みをお願いします。  
日時：10月7日(日) 8:45 霧が丘校舎集合  
※雨天時 8日(祝・月)に延期

## 茶話会

学園でお茶を飲みながら、教員・保護者と、シュタイナー教育について聞きたいことをざっくばらんに話しませんか？  
日時：10月13日(土) 13:30～15:30  
場所：十日市場校舎  
事前のお申し込みが必要です。

## 連続講座

「多面的シュタイナー考察」⑥ 歯とオイリュトミー療法  
日時：9月30日(日) 13:00～15:00  
講師：石川公子(オイリュトミー療法士)  
場所：霧が丘校舎

## アドヴェントのつどい

クリスマスをお待ちにする時期、美しく飾られた学園をお楽しみください。  
日にち：12月2日(日)  
場所：霧が丘校舎(入場無料)

お問合せ、お申込み先  
横浜シュタイナー学園事務局  
Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)  
【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702  
加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園  
ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029店(せのきわい店) 当座 013702

## 校内見学会

ガイドツアー形式で、事務局長、教員、保護者が、学園内をご案内します。(正味1時間)  
学園の雰囲気を感じていただけるこの機会に、どうぞお訪ねください。  
日時：10月19日(金) 15:30～  
事前のお申し込みが必要です。

## 8年生劇「冬物語」

日にち：11月22日(木)、11月23日(金祝)  
場所：岩間市民プラザ  
詳細は、学園サイトで公開していきます。

ご支援ありがとうございます

- ◎ ご寄付・・・二期生保護者有志の皆様、小川麗子様、伊藤美恵子様、教員養成講座の皆様、横浜あざみロータリークラブ様、星の金貨様 子どもといっしょのくらしかたに参加の皆様(古本・古着寄付箱より)
  - ◎ よこはま夢ファンドを通してのご支援・・・三角忠様
- 大切に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

## ☆星の金貨☆

オープンデイをはじめ、各種講座の際には、スクールショップ星の金貨にお立ち寄りください。  
子どもたちも使用している文具類の他、季節のポストカード、虹染め布、木のおもちゃ、木の器、編みぐるみ、書籍、貴石、ヴェレダ商品など取り揃えてお待ちしております。  
お問い合わせ e-mail: [hoshi-kinka@freeml.com](mailto:hoshi-kinka@freeml.com)  
ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



横浜シュタイナー学園  
～Newsletter 第114号～  
2018年9月25日発行  
編集： 広報の会  
発行： NPO法人 横浜シュタイナー学園  
<https://yokohama-steiner.jp>  
〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20  
TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします